

原強プ第20号
2020年3月13日

島根県知事 丸山達也様

中国電力株式会社
代表取締役副社長執行役員
原子力強化プロジェクト長
小川司徳

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する
再発防止対策の進捗状況について（報告）

2020年2月19日に開催された、第2.3回原子力安全文化有識者会議の議事概要について、平成22年3月30日付け消防第2738号および平成22年10月19日付け消防第1054号の申し入れに基づき、添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第2.3回原子力安全文化有識者会議 議事概要

以上

第23回原子力安全文化有識者会議 議事概要

- 開催日時 2020年2月19日(水)14時00分～16時00分
- 開催場所 松江市総合文化センタープラバホール2階 大会議室
- 出席者 〔社外委員〕梅林委員, 亀城委員, 児玉委員, 高尾委員, 豊田委員(座長)
※野津委員, 山浦委員は欠席
〔社内委員〕小川原子力強化プロジェクト長(幹事), 平野副社長, 岩崎常務

○ 議事内容

1. 開会あいさつ(小川幹事)

- ・ただいまから、「第23回原子力安全文化有識者会議」を開催する。
- ・委員の皆さまにはご多用の中、本会議に出席賜りお礼申し上げます。
- ・始めに、昨日(2月18日)、島根原子力発電所で判明した事案について、ご報告させていただく。
- ・島根原子力発電所で協力会社に業務委託している巡視業務に関し、2月16日(日)の業務について、実際には巡視を実施していない区域があったにも関わらず、実施したとして結果の報告を行なったという事案である。
- ・本事象が発生したことにより地元の皆さまをはじめ、多くの関係者の方々にご心配をおかけすることとなり、この場をお借りしてお詫び申し上げます。
- ・今後、事実関係を把握し、再発防止を徹底するとともに、丁寧な情報提供・情報発信に努めていきたい。
- ・続いて、最近の当社の動きに関して、ご報告させていただく。
- ・電力の小売りの競争がますます激しくなっている中で、当社の送電線・配電線を担うネットワーク部門を別会社として切り離すことになり、当社の経営は創業以来の大きな転換期を迎えている。
- ・そこで新しい中国電力グループとして今後の10年間の指針となるグループ経営ビジョンをとりまとめ、これまでの思考様式や行動様式などをギアチェンジして、電気事業の枠をこえて、地域や他企業とのつながりを大切にしながら、事業領域をひろげ、地域とともに成長・発展をめざしていこうという、今後の取り組みの方向を明確にし、スタートを切ったところ。
- ・事業運営にあたっては、変えるべきところと変えてはならないところがある。地域の信頼あってこそその原子力発電所という、私どもが大切にしてきた原子力安全に関わる基本姿勢はこれまでと全く変わることはないし、原子力安全文化醸成の取り組みも、更なる充実に取り組んでいくので、引き続きよろしく願います。
- ・さて、本日の会議の議題については、最初に、点検不備問題や低レベル放射性廃棄物に係る流量計の不正事案を踏まえて、当社が継続して取り組んでいる再発防止対策の実施状況について報告させていただく。
- ・2つ目の議題として、原子力安全文化醸成に向けた取り組み状況について、今年度の関係社員に対するアンケート結果をとりまとめたので、概要を報告させていただく。
- ・最後に、情報提供として、島根原子力発電所2号機に関する新規制基準適合性審査の状況と島根原子力発電所の安全性向上に向けた取り組みについて、説明させていただく。

2. 議事

- (1) 点検不備問題に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて
- (2) 原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて

資料に基づき、電源事業本部部長 古川および原子力強化プロジェクト部長 安村から「点検不備問題に係る再発防止対策の実施状況・評価ほか」および「原子力安全文化醸成に向けた取り組み」について説明し、質疑を行った。

主な意見は以下のとおり。

〔再発防止対策の実施状況に対する意見〕

- ・見学会へ同行された社員から、「発電所の取り組みへの理解がうれしく、更なる安全の追及をしていかななくてはいけないと思った。」との感想があった。このような経験をしたことが安全への行動基準に繋がると思うので、是非広く多くの社員の方に参加していただきたい。
- 同時に、発電所の取り組みを広く知っていただくことが大事。
- ・不適合判定検討会への報告件数が多いというものは、そういうものがあるということの「見せる化」をしている。それが減ってきているかどうかということが一番大事であると考えているが、安全文化がどの程度定着しているか確認したい。
- ・原子力安全文化に誓いの鐘を鳴らすという行事は、風化させないためにも続けていってもらいたい。

〔原子力安全文化醸成に向けた取り組み全般に対する意見〕

- ・安全を文化にするということは、中国電力の理念でも思想でもスローガンでもなく、実際の現場での一人ひとりの働きが文化である。
- ・柔らかい事例でもよいので、若い社員に刺さるような事例、そういったものが教材として使われるともっと幅が出てくるのではないか。

〔島根原子力発電所 サイトバンカ建物の巡視業務未実施に対する意見〕

- ・（巡視未実施は、）2月16日のみとのことだが、常態化していると大変なこと。事実確認をしっかりと行い、報告いただくことが必要。
- ・点検不備から10年が経過し、そろそろ初心に戻ってみたいという思い。社員の皆さんは10年間一生懸命取り組んできたが、今度は協力会社からこのようなことが起こった。これからの取り組みにあたって、協力会社を含めた話し合い研修など、そういうところまで踏み込んだチームプレイが必要ではないか。
- ・協力会社に安全意識が浸透していないのかあるいは風化のスピードが速いのか。意識の継承がうまくいっていないのであればそのあたりのことを新たなテーマとしてしっかりと対策すべきである。
- ・原子力発電では絶対に事故があってはいけない。そういうことであれば、協力会社の社員を含めて、中電は発注元として同じ地域で同じ仕事をしているという気持ちでやっていただきたい。

- ・事象の発覚後、その日かその翌日にはきちっとした対応が出てきてしかるべきだと思う。迅速性がもう少し欲しい。失念によるものか短絡的な発想に基づくものかなど、本人や上司に確認することくらいはすぐに出来るのではないかな。
- ・一番基となる安全意識がどのように保たれているか、あるいはそうでなかったかしっかりと検証してもらいたい。

(3) 情報提供：島根原子力発電所2号機 新規規制基準適合性審査の状況について

(4) 情報提供：島根原子力発電所の安全性向上に向けた取組みについて

資料に基づき、電源事業本部部長 岩崎から「島根原子力発電所2号機新規規制基準への適合性審査状況」および「島根原子力発電所の安全性向上に向けた取組み」について情報提供し、質疑を行った。

3. 閉会あいさつ（小川幹事）

- ・本日は長時間に渡り、有識者委員の皆さま方に様々な角度からご意見・ご指導等をいただき感謝申し上げます。
- ・冒頭で説明させていただいた事案については、本日発表したばかりで、詳細を把握出来ておらず、十分な説明が出来なかったことについてお詫び申し上げます。
- ・点検不備、LLW流量計問題については、いずれも当社社員によるものであったため、社員にウェイトを置いて取り組んできたが、今一度初心に戻って発電所全体を俯瞰して頑張っていきたい。
- ・地域社会からの信頼あつての原子力発電所であり、これからも引き続きご指導をよろしく願います。

以上